

今月号の特集は「小児期の糖尿病」という比較的狭い領域に焦点を絞ったものとなりました。

総論担当の浦上先生は、定義も分類も成人のそれと変わらないが「必要とされる療養支援は大きく異なる」という視点で今回の特集の口火を切ります。

宇都宮先生には、1型糖尿病の診断フローチャートをご紹介いただきました。また、インスリン治療と持続血糖モニタリングに関連して、血糖管理のみならず「自己管理能力と治療意欲の向上」を視野に入れた包括的医療の重要性を強調しておられます。三浦先生は、急性胃腸炎などのCommon Diseaseの診療においても「劇症型1型糖尿病の存在」を視野に入れておくべきと述べておられます。発育、発達の視点が不可欠であるという点で、2型糖尿病はまさに小児科の専門性が発揮される疾患です。発症には肥満、運動不足のみならず、遺伝的要因や胎児環境も関与していることから、松井先生は「生活習慣のみを焦点とするのは厳に慎むべき」と述べておられます。多様な病因を隅々まで見渡す広い視野は、小児疾患の診療全般に共通する重要事項と感じました。鈴木滋先生には新生

児糖尿病や若年発症糖尿病について、病態を中心にかなり専門的な解説をしていただきました。単一遺伝子疾患であるという点で、まさに小児科医の視点が活かされる病態です。

続いて、成人後の健康維持をふまえた血糖・脂質管理のポイント（高谷先生）、期待される新世代の治療戦略（鈴木潤一先生）、さらに第二の生活の場である園や学校に広げる支援（志賀先生）、気付かれにくいスティグマによる心理社会的不利益（小川先生）、そして大規模災害を想定した知識や体制作り（藤原先生）まで、糖尿病にかかわるあらゆる課題を俯瞰する広大な視野で特集を締めくくっています。

本誌がお手元に届くころには年も明けていることでしょう。新たな視点で診療に臨もうと考えておられる先生も多いかと存じます。そんな折「糖尿病アップデート」という“狭い視野”の本特集が、小児科医の広い視界と奥行きのある眼差しを想起させるものであればと願っております。

（高橋 孝雄）

編集：中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第66巻 第1号 1月号

2025年1月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 49,500 円（本体 45,000 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料で〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕

Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。